

第9回地域の学校教育のあり方を考える会 会議録

■日時 令和3年10月15日（金）午後7時00分～午後9時10分

■会場 ベルディーホール会議室

■出席者 26名／29名（敬称略）

・会長 宮崎 信彦 ・副会長 橋本 衛 ・副会長 伊藤 竜太
・委員 藤原 恵美 多方 正行 西田 修 熊田 勝彦 足立 浩之
藤田 肇秀 安藤 和志 堀口 善弘 笹倉 敏弘 植山 恵
寺尾元基（欠） 足立 吉継 藤田 貴久 植田 美香 中里 尚子
西村 恵子 藤村紗綾佳 岩本亜希（欠） 宮崎あゆみ（欠）
長澤 高意 神崎 進吾 足立 徳昭 大久保修也 荻野 学
吉田 重徳 竹中 裕貴

【事務局】

・教育長 越川 昌信
・教育担当理事兼教育総務課長 藤本 志織
・学校教育課長 吉田 勇二
・学校教育課副課長 吉川 成悟
・教育総務課副課長 山本 聡
・教育総務課主査 有田 好孝
・教育総務課主査 安平智香子

■傍聴人 2名

■議題

- (1) 会議録の承認について
- (2) 小学校について
- (3) 統合中学校の場所について
- (4) 中学校統合の時期について

■会議結果

- (1) 第8回会議録が承認されました。
- (2) 小学校についての意見交換を行いました。
- (3) 統合中学校の場所についての意見交換を行いました。
- (4) 中学校統合の時期についての意見交換を行いました。

■会議の経過

次第 1. (事務局)	<p>開会 ただ今から『第9回地域の学校教育のあり方を考える会』を開催いたします。</p> <p>資料の確認と注意事項 会議を始める前に、資料の確認と注意事項がございます。</p> <ul style="list-style-type: none">○資料の確認○注意事項（紙面により）<ul style="list-style-type: none">・会議録作成のための録音・会議録は委員承認の上、後日ホームページで公開・傍聴希望者への注意事項 <p>会議の注意事項</p> <ul style="list-style-type: none">・必ずマイクを使って発言してください。・マイクは除菌シートで拭いてから次の方へ回してください。
次第 2. (事務局)	<p>会長あいさつ それでは、次第に沿いまして会議を進めさせていただきます。 次第2でございます。会長あいさつをお願いいたします。</p>
(会長)	<p>みなさんこんばんは。大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。最近のコロナ感染状況の話ばかり各会議でしなければならいのですが、今、みなさんご存じとおり激減しております。昨日で兵庫県で30人、今日は28人、大変下がってきているので有難いことではあるのですが、我々もまだまだ油断することなく、コロナ対策を徹底するという事で、三密の回避であったり、マスクであったり、手指消毒等をしっかり徹底していただき、自分自身が感染しない、そして人に感染させないことを注意していただきたいと思っておりますので、よろしくをお願いいたします。</p> <p>さて、今日の会につきましては、前回緊急事態宣言の中でみなさんから小学校はどうするんだという意見を賜りました。ただ、時間の制約があったために、お聞きするのが精一杯で整理することができなくて終わっておりますので、このあたりを少し整理させていただいて、その後で、中学校の統合について具体的に場所や時期について意見交換をしていきたいと思っておりますので、みなさんの忌憚のないご意見をよろしく願いしたいと思っております。それではよろしくをお願いいたします。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございました。</p> <p>本会議は、設置要綱第6条第2項により、本日の出席者数23名であり過半数を超えておりますので、この会議は成立していることをご報告申し上げます。</p>

<p>次第 3 .</p>	<p>議事</p>
<p>(事務局)</p>	<p>次第 3 . 議事でございます。 ここからは、要綱第 6 条の規定によりまして、宮崎会長により進行をお願いしたいと思います。会長よろしくお願いいたします。</p>
<p>(議長)</p>	<p>それでは、ここから議長を務めさせていただきます。よろしく申し上げます。 議事の前に、会議の公開、非公開、傍聴について一括してお諮りいたします。 会議の公開、非公開については、特別非公開とする事項はないものと思いますので、公開会議を提案します。 次に、本日の傍聴希望ですが、特に傍聴要領に違反されている方もいらっしゃるらないので、設置要綱第 9 条の規定により許可したいと思いますと思いますが、ご異議ございませんでしょうか。</p>
<p>(議長)</p>	<p>(異議なし)</p>
<p>(議長)</p>	<p>それでは、傍聴を許可したいと思います。事務局、注意事項をお願いします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>はい、傍聴者の注意事項につきましては、お渡ししております「傍聴を希望される方への注意事項」をご確認ください。 本日の会議資料とあわせまして、過去 8 回の会議資料を傍聴用として準備しておりますのでご覧ください。ただし、持ち帰りはできませんので、よろしくお願いいたします。必要な方は、教育委員会のホームページから資料をダウンロードできますのでご活用ください。以上です。</p>
<p>(議長)</p>	<p>傍聴人の方々におかれましては、会議の運営にご協力をお願いいたします。</p>
<p>議事 (1)</p>	<p>会議録の承認について</p>
<p>(議長)</p>	<p>では、議事に入りたいと思います。まず始めに、議題 (1) 会議録の承認についてです。事務局お願いします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>はい。出席のみなさまから、議事録承認書の提出をいただきました。遅れて来られる委員のみなさま、欠席されている委員のみなさまの会議録承認書が揃い次第、ホームページで公開したいと考えております。ありがとうございます。</p>
<p>(議長)</p>	<p>それでは、みなさんからの承認をいただいたとのことですので、本会で承認したいと思います。よろしいでしょうか。 (異議なし)</p>
<p>(議長)</p>	<p>それでは、会議録承認書が揃い次第、この内容でホームページでの公開をお願いします。</p>

議事（２）

小学校について

続きまして、議事の（２）「小学校について」に入っていきます。前回、小学校の統合について、全ての委員さんからご意見をいただきました。その際に、次からは小学校のこともきっちり頭に置きながら、中学校を進めていきたいと私の方から申し上げましたが、やはり小学校の統合に関して様々なご意見がありましたので、少しだけ整理してから中学校に進みたいと思います。事務局で集約していますのでまずは説明をお願いします。

（事務局）

はい。資料２をご覧ください。前回みなさまからの意見をまとめ、小学校の統合について、その理由、そして統合の時期や形について色分けをしました。

まず、小学校の統合についてですが、ご覧のとおり時期や形は様々ですが、将来的には中学校と同様、小学校の統合も仕方ないとのご意見がほとんどでした。

裏面をご覧ください。その理由としましては、子どもたちが減って、クラス替えができない学年があったり、複式学級の可能性があったり、多くの教員で、多くの価値観で学べる環境を望まれていたり、教員が減って、教員の負担が増えることで、子どもたちと向き合う時間が減るのではないかという不安などからのご意見だったと思います。

また統合の時期については、中学校の統合後が良いのではなかという意見が多くありました。では、中学校統合後、どのタイミングで統合かという意見としては、中学校の統合後、その様子をしばらく見ながら、小学校を統合していくのが良いという意見が多いのかなと思いました。その中でも具体的な目安として、町全体で１学年３学級が維持できる時期、１学年児童数１桁の学級や男女比に偏りが出るとき、そして複式学級が見えてきた時などが挙げられました。

また、統合の形ですが、町全体で統合というご意見が、区ごとに統合に比べて多くありました。まず区ごとで統合というご意見には、中学校の統合の様子を見ながら段階的に統合を進めて欲しいとのご意見がありました。また、町全体で統合との意見には、区ごとに統合しても、数年後すぐに町全体で統合しなければならなくなるといったご意見がありました。

教育委員会の立場としては、短期間で統合を繰り返すことは、子どもにとっても、保護者にとっても、教育現場にとっても負担などの面で課題があるのかなと考えております。

そして、町全体の統合には小中一貫教育への期待が含まれていました。実際に小中一貫校とするならば中学校統合の際には、小学校の統合も見据えた検討も必要とのご意見もいただいております。まとめについては以上です。

（議長）

はい、ありがとうございます。

みなさんの意見を伺いますと小学校についてはもう少し協議が必要ではないかなと感じています。私の気持ちとしては、みなさんと同じように小学校も統合かなと。しかし、中学校統合と同時では、子どもの減少のスピードから言って、過大な施設を造ることになりそうなので、少しもったいない感じもします。それから複式学級になるにはもう少し時間

がある。それから小学校については、保護者アンケートからも、小学校の統合については、地域の理解という点でまだまだ合意が得られていないのかなと思います。小学校については、将来的には統合もやむを得ないと思いますが、当面は現状維持とし、教育委員会には将来を見据えて、多可町にとって望ましい『小中一貫教育』についても意見が出ていましたので、すぐに小中一貫教育という事ではなく、先生方にも研究を進めていただくことが必要かなと思いますので、しばらく現状維持のような形で進めたいと思うのですがご意見ありませんか。課題はいろいろあるかと思うのですが、一旦、小学校は当面は現状維持という形でまとめて、中学校を考えながら進めていくという形でいかがでしょうか。

(委員同意)

(議長)

いずれにしても、統合を決めてから統合するまでには3年ほどは必要ですので、せつかく統合するのだから、その統合効果が最大限に発揮されるタイミングがよいと思います。統合したけれどクラス替えができないとなると意味がありませんし、先生方からもお話がありました小中一貫校や教科担任制が導入されるようですので、専門の先生が配置できない状態になってはいけないという感じがします。遅すぎることなく、小学校の統合を検討することになると思うのですが、小学校統合の目安みたいなもの、教育委員会で考え方について何かありますか。

(事務局)

はい。統合の目安ですが、まずは基本方針にありますように、「複式学級」が生じる可能性がわかった段階で協議を開始するのが一つの目安になると思います。しかし、児童数が10人前後を推移した場合、複式学級は発生しませんが、極めて小規模なクラス編制が続いていくこととなります。その場合、統合の協議が始められない可能性がありますので、統合の効果が最大限発揮される統合時期の考え方の一つとしまして、中町中学校のクラス編制のお話が参考になると思います。中町中学校では2クラスから3クラスにした学年がありまして、子どもたちにとっても、教員にとってもクラス替えがしやすく、救われた子どもが多かったとの話から、中学校統合後、町全体を見て、全学年でクラス替えが出来る2～3クラスが維持できる時期を目安に、出生数の推移を注視しながら、そして児童数を見定めて、改めて「地域の学校教育のあり方を考える会」を設置してどうかと思いますがいかがでしょうか。

(議長)

はい、ありがとうございました。統合の目安としては複式学級が生じないように、もしくは今後の出生数の推移、児童数の推移をみながら、町全体を見て、全学年でクラス替えが出来る2～3クラスが維持できているうちに、小学校の統合について検討するという事でいかがでしょうか。ご意見はございませんか。

(意見なし)

(議長)

とりあえず小学校については、今の目安などを参考に、次期の地域の学校教育のあり方を考える会の時に、再度検討するという事でご異議ないですか。

(議長)	<p>(異議なし)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>小学校については、地域との繋がりもありますし、すぐに結論が出るわけではありませんが、当然、小学校もどんどん子どもたちが減っていく状況からしますと、時期や範囲についてはもう少し議論が必要かなと思います。</p> <p>しかし、意見の中にもありましたように、将来的にはやはり小学校も統合が必要かなと思います。また、小中一貫教育という意見もありましたように、そうなれば中学校の近くにある方がいいでしょうし、そういった形でまとめて、次回、事務局から案を提案してもらいたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>では、小学校については、一旦、たくさんの意見をいただきましたが、そういう形で整理をして、時期が来たときにもう一度考えるということにしたいと思います。</p>
議事(3) (議長)	<p>統合中学校の場所について</p> <p>では次に、議事(3)統合中学校の場所についてです。これまで8回の会議を重ねてきた中で、中学校の統合の方向性を出していただきました。先ほどは小学校の方向性も出していただきました。また、それぞれの不安や課題についても十分にご意見をいただいたところです。それぞれの課題を潰していきながら、議論を深めていく中で、この場で決定せずに、次の段階へ、次の統合準備委員会へ繋いでいく課題もあります。</p> <p>私たちの役割は、今年度中に意見書を提出するということですが、事前に副会長や事務局と調整しますとこの会で決めなければいけないことは、統合する中学校の場所と時期をみなさんの意見をいただいて、方向を統一させていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>その前にこの判断の参考になる通学方法、通学時間や小中一貫教育について、事務局からの説明をお願いします。</p>
(事務局)	<p>はい。それでは統合中学校の場所についてご検討いただけるように、説明させていただきます。</p> <p>まず、通学についてです。おさらいですが、「多可町小中学校規模適正化基本方針」では、中学校は6キロ以内は自転車、6キロを超えるとバス通学になり、小学校では4キロ以内は徒歩、4キロを超えるとバス通学になります。通学時間は、小・中学校とも通学方法によらず、概ね30分～60分程度となっています。</p> <p>現状ですが、杉原谷小学校、八千代小学校、加美中学校は路線バスを利用しバス通学をしています。利用料は町が全額負担しています。</p> <p>次に、現在の小・中学校の通学時間の現状について見てみますと、通学時間が最も長い集落は各学校ご覧のとおりです。最大で通学時間70分という集落もあるようです。</p> <p>次に、それぞれの中学校を目的地として、通学時間をシミュレーションしたいと思います。前提条件として、既存の路線バスルートを利用することを想定します。ですので、八千代区の大屋や大和地区からは、八千代小学校周りで中区や加美区へ行く、一番時間がかかるルートで算出しています。当然、統合中学校の場所が決まれば、路線バスやコミュニティバスのルート変更や増便など、統合準備委員会で検討していきます</p>

が、現時点でお話できる交通ルート、今ある公共交通ルートで検討をお願いしたいと思います。

中区から見ていきますと、最も時間がかかる地域は加美区山寄上からの通学で約40分です。この路線は、乗車する生徒数がこの沿線は多いので、増便による運行を想定しています。また、加美区の松井小校区の大部分は自転車通学の範囲となります。八千代区からは全員バス通学を想定し、路線バスに加えて、コミュニティバスも運行しています。想定ですが、コミュニティバスのルートを変更するなど、旧町を横断するトンネルを利用した新規ルートも想定できるのではないかと考えております。図の最短ルートも想定できるのかなと思います。

次に加美区を見ていきます。最も時間がかかる地域は八千代区上三原からの通学で55分です。乗り換えが発生するルートです。八千代区からは全生徒バス通学を想定した場合、コミュニティバスのルート変更などにより、トンネルを利用した新規ルートを想定すると時間短縮が図れます。また、中区の中町北小学校区の大部分は自転車通学の範囲となります。

最後に八千代区ですが、最も時間がかかる地域は加美区山寄上からの通学で59分です。今回の想定の中で最も通学時間の長い集落です。また、中区、加美区の全生徒はバス通学になると想定しています。加美区、中区から八千代中学校へのルートは国道から産坂を通るルートしかありませんし、対象となる生徒数が多いので増便による運行又は、コミュニティバスのルート変更などの対応を想定しています。

次に、児童生徒の集落別分布状況を説明したいと思います。基本的にバス通学者が多いと輸送コストが大きくなります。従いまして、各区の状況をご覧くださいますと、それぞれ6キロ円の外側の児童生徒はバス通学になりますので、加美区、八千代区ではバス通学者が多くなり、中区に比べて輸送コストも大きくなることがわかります。

また、具体的な通学方法については、統合準備委員会において協議を行いますので、みなさまからいただいたご意見については、統合準備委員会へ引き継ぎたいと考えております。例えば、「安全安心な通学を最優先すること」や「できる限り通学時間など保護者や子どもたちに負担や格差が生まれないようにすること」などがあげられると思います。

次に、参考として、他市町の状況についてご紹介しますと、丹波市山南中学校は現在協議中ですが、概ね既存の路線バスを増便したり、ルートの延伸をしたりしながら対応される予定です。神河中学校では、基本的に路線バスを活用しながら、路線バスのない谷にはスクールバスを3台走らせています。加東市については、東条学園はスクールバス4台で運行、社の小・中学校はスクールバス12台で運行予定とのことでした。

次に、3中学校で統合中学校を建設した場合のコストを試算しました。住民説明会でも財政面やコストの面についても一緒に説明して欲しいとの要望もありましたので説明させていただきます。まず、統合時に必要な建設費等のコストについて試算しています。まず中町中学校を利用した場合ですが、校舎は外廊下方式で、すでに築60年近く経過していますので、統合後も改修して使うことは少し難しいと考えています。基本的に建替を想定し、その間の仮校舎や学校の解体経費などを計算し、約26.7億円となりました。

次に、加美中学校ですが、平成13年度に建てられた新しい校舎ですが、統合中学校は4クラスから5クラスを想定していますので、3クラス対応の加美中学校では教室数が足りません。また北校舎も築50年を超えているため、北校舎の建替と教室数を増やす増築又は新築を検討する必要があります。試算しますと9.8億円となります。

次に、八千代中学校ですが、校舎は築50年を迎えています。加美中と同じで、教室数が足りませんので校舎を増築したり、また格技場がありませんので格技場の新築などを行い約10.7億円となります。

次に、全く違う場所で新しく学校を建てる場合を試算しました。ここでは用地買収にかかる費用や造成費を含めずに試算しています。校舎や体育館、格技場は全て新築になりますので、導入コストは26.1億円となります。ここでは、加美中学校の校舎が一番新しいため、一番安くなっています。

次に、40年間でコスト比較をしてみます。コストには、先ほど説明した統合直後に必要な導入経費、イニシャルコストとその後の運営に必要な経費、ランニングコストがあります。このランニングコストですが、例えば今ある校舎のメンテナンス、改修経費、電気ガスなどの光熱水費、そして路線バスの運行経費やバス通学者への通学定期助成金などを経費として試算しています。中町中学校を利用する場合は、40年間で36.3億円、加美中学校を利用する場合は45.1億円、八千代中学校を利用する場合は61.7億円と試算しています。その他の場合は施設が全て新しく改修コスト安くなりますので33.7億円と最も安くなります。特に八千代中学校を利用した場合のランニングコストが高いのは、40年間の間に校舎や体育館の建て替えが必要となりますので最も高くなっています。導入経費と40年間のランニングコストを合計しますと54.9億円の加美中学校が最も安くなります。これは学校が新しいため建て替え経費を計上していないことが要因です。

次に、60年間のランニングコストで比較してみますと、中町中学校では格技場の建替が、加美中学校では校舎、体育館、格技場の建替が一気にやってきます。60年間の合計を見ていると逆に加美中学校が高くなり、中町中学校は安くなります。これは、向こう何年間で経費を試算するのか、学校施設の建設年度や建替のタイミングによって、コストは大きく影響を受けます。何年が適切かは個別に検討する必要がありますが、ある程度長期的なコスト計算は必要かなと思います。

次に小中一貫教育についてご説明したいと思います。「小学校と中学校が目指すべき子ども像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育」が小中一貫教育でございます。具体的には、学習面や生活面のルール統一、中学校の教員が小学校に乗り入れ、より専門的な授業を実施したり、学校行事を合同で行ったり、異学年と一緒に授業を受けたりしながら、それにより中学生は下級生への思いやりを持つことができ、自己有用感を育むことができると言われています。

小中一貫教育のメリット・デメリットについてですが、一般的に主なメリットは小学校から中学校への接続がスムーズに行うことができ、中1ギャップや不登校の減少につながることや小学校の時から子どもを見続けている先生が中学校にいるので安心感があることが挙げられています。またデメリットは、小学校と中学校の節目が無くなり、新たな気持ちの切り替えや進学する充実感がなくなる可能性があるなどです。小6

としてリーダーシップが発揮できないことになりませんが、反面、中1で再度下級生になることもなくなるため、9年間を通じて系統立てた学習指導ができることになります。

他市町の事例ですが、大阪府の能勢小中学校は6つの小学校と2つの中学校を統合し、小中一貫校を新設されています。これまで10人以下の学年が多くあった小学校も、統合により小学校各学年2クラス、中学校も各学年2クラスの規模となっています。しかし、人口規模が約9500人ですので、新入生が町全体で47人と少なくなっているのが現状のようです。しかし保護者の感想として、同学年が群れて遊ぶことができ、成長を実感されている保護者が多く、中学生が優しくなったり、張りきったり、小学校の丁寧できめ細やかな授業と中学校の組織的で効果的な生徒指導や授業などが好循環を生んで、小・中一緒の職員室には活気があり、統合時の忙しさも年々落ち着いてきているそうです。また、姫路市の白鷺小中学校では、10年前から小中一貫教育をモデル校として実践され、10年間のノウハウを蓄積されて、平成30年度に義務教育学校として校長1名副校長2名体制でスタートされました。グラフをご覧ください。姫路市の小中一貫校でない学校と比較して、「学校の勉強が分かる」、「自己肯定感が高い」、「保護者や地域の協力がある」など小中一貫校の児童生徒の方が高く、また、小中一貫校の中でも小学校と中学校の校舎が近い、一体の施設であるほど高い結果となっているようです。参考にさせていただきたいと思います。

最後に、近隣施設との連携についてです。多可町では合併当初から中コミュニティプラザの老朽化や町立の図書館が狭く、市街地から離れて行きにくいといった課題があり、これらの施設を併せ持つ施設として(仮称)生涯学習センターの検討を開始しました。財政の問題で一度は凍結されましたが、今年度改めて委員会を設置し、検討を再開しています。

生涯学習センターとは、生涯学習に関する情報提供機能、学習スペースや交流機能、図書館などを備えた施設で、イメージとして加美・八千代プラザのように、会議室や図書館を備えた施設です。近隣では西脇市の「ミライエ」のような施設です。

そして検討されている内容としてお知らせしたいのが、建設候補地です。全ての世代に使っていただくため、近隣施設との相互利用により気軽に立ち寄ることができ、利便性や集客効果を期待して、中区のアスパル・中央公園の周辺を候補地として検討を進めています。機能やレイアウトは検討中ですが、図書館や学習スペースが検討されていますので、学校施設と相性がよく、相乗効果も期待できそうな施設ですので情報提供させていただきました。

以上です。よろしくお願いたします。

(議長)

はい、ありがとうございました。ただいまの説明についてご質問はありませんか？

(意見なし)

(議長)

では、最後にされた生涯学習センターの建設計画ですが、前回は財政の面でできなかったと聞いているのですが、このような大きなプロジェクトが、学校の統合であったり、生涯学習センターの建設であったりと

続くのですが、また財政の面でどちらかができないということはありませんか。そこは当然役場内ではきっちり連携が取れていると思うのですが、我々としては、生涯学習センターの建設については聞いたことがない、学校のことを考えているけれどもこういうことがある、たくさんお金のいる事業があるので少し心配になるのですが、そのへんの連携とか住民にとっては余計に不安に思われるのと思うのですがそのあたりいかがですか。

(教育総務課長)

失礼いたします。会長からご質問をいただいた住民の方が生涯学習センターの建設についてご存じでないのではないかとご質問がありました。これにつきましては、生涯学習センターの建設委員会へ私も出席していますが、前々回の会議の時にそのような話が中学校のPTAの方から出ております。それは、中学校のPTAとしての意見を発表される際に、PTAでは生涯学習センターの建設については何も知らない役員さんが多いということで、子どもたちにとって望ましい教育環境を検討している中で、やはりそのあたりの連携をしっかりと取って欲しいというご意見がありました。これにつきましては、役場としてもしっかりと住民のみなさまの方にも、このような建設計画が並行して進んでいることを、それぞれの会議でもお知らせしていくことを改めて確認をいたしまして、本日この会議でご紹介をしたという経緯がございます。それと財政面についてですが、前回生涯学習センターの建設については平成26年ごろに一旦凍結をしております。ちょうど役場の新庁舎建設と時期が重なりまして、まずは防災機能の確保ということで、新庁舎の建設を中央公民館のところで予定していましたが、その規模を縮小して、今の場所に本庁舎を建設することを優先して、一旦、生涯学習センターの建設は見送るという判断がされております。ご心配をいただいている財政のことについては、後ほど説明もいたしますが、生涯学習センターと中学校の建設を含めて、合併特例債という、合併した町が使える少し有利な起債、借金ですね、そういったものもありまして、その中では十分に組み入れがされていまして、今後10年間の長期財政計画の中でも多可町としては財政的に心配することはないと財政課から説明を受けております。

(議長)

はい。ありがとうございます。みなさん方からご質問はありませんか。

(委員)

前回の生涯学習センターの策定委員をしていたので経緯はいろいろ分かっているのですが、今回PTAの方から生涯学習センターの会議に入っているが意見を聴かせて欲しいということでお話がありました。こっちはこっちで中学校の統合の話が進んでいますという先方も全く知らなくて、私は知っていましたが。そうしたら空いてくる施設がたくさん町内に出てくる、八千代区は借地のことがあるので制限があると思いますが、だいたい町内空き施設ができるのではないかとその方に教えたんです。だいたい新築に拘られているようですが、ちょっとそこは考えた方がいいのかなと。こちらの会議の進み具合で、生涯学習センターも考えた方がいいのではないですかと。また新庁舎と同じですよ。新庁舎の場所が二転三転しました。こち

らの会議の進捗を見ながら進めて、空き施設ができればそれを生涯学習センターに使うことも、候補地のアスファルト周辺からすれば、中町中学校に学校を建てても場所としてはおかしくない訳で、この会議と本当に連携した方がいいのではないかと思いますのですが。

(教育総務課長)

失礼します。貴重なご意見ありがとうございます。生涯学習センターの建設場所につきましては、跡地活用についてのお話もございました。そのことも含めて、今まで検討をしてきた経緯もございます。八千代北小学校の跡地を活用できないかという提案もいただきましたが、改修費や住民の方が行きやすい場所ということもあって、その時は八千代北小学校の跡地を使わなかったという経緯がございます。生涯学習センターの建設場所につきましては、今後建設検討委員会でも議論をいたしますし、まだ場所も決まっていない状況ですので、今日この場でいただいたご意見につきましては参考にさせていただいて、こちらの事務局から伝えていきたいと思っております。いずれにしても、町で大きな事業が2つ同時に進んでいるということで、これについては連携をしながら、調整を進めていきたいと思っておりますのでご理解いただきますようお願いいたします。

(議長)

よろしいでしょうか。

(委員)

はい。

(議長)

他の方、中学校の統合場所について、今から議論していくのですが、資料の説明がたくさんあったと思いますが、ご質問等ございませんか。また、自分の意見を言うていただくときに説明があった資料の中で分からない部分がありましたらその時に質問していただいたら結構ですのでよろしく願います。それでは、ひと通りみなさんのご意見をお聞きしたいと思います。ではよろしく願います。

(委員)

場所ですが、まちづくりをする上で、町の核となる場所が欲しいと思っております。やはり今説明のあった生涯学習センターもそうなのですが、子どもたちが歩いて行ける範囲にそういう施設があったらいいなと思うのと、やはり町外から多可町に来られたときにこの辺りが中心なんだ、賑やかそうで楽しそうだなと思ってもらえるような空間があればいいなと思うので、なんとなく生涯学習センター候補地の周辺がいいなと思います。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

場所についてですけれども、今、普通に多可高校へ、八千代区からも加美区からも中区からもバスや自転車で通学していると思っております。それですんなり通学できているのですが、八千代区の場合、大和線は土日がバスが走っていないので、部活動があると送る必要があるのですが、それでもすんなり通学できるのは中区辺りがいいのかなと思います。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございます。

(委員)	<p>この会議に来るまでに中学校の場所はどこがいいかとイメージしてきたのですが、そのイメージというのが、まさにこの生涯学習センター候補地であるアスパル周辺に、新たな統合中学校を建設するのがいいかなと思っていました。いろいろ役場から資料を出されている中で考えてみますと中町中学校を使うこともあるかと思うのですが、私のイメージではアスパルの周辺に新たな統合中学校を建設するという考え方でおりました。資料の中で既設の学校を利用するとなると仮設校舎であったり、一部改修を伴うとか、増築を伴うとか、その部分にコストがかかる、仮設の部分など二重となるコストが結構あるのかなとイメージがあったのでそういう発想をしました。以上です。</p>
(議長)	<p>はい、ありがとうございます。</p>
(委員)	<p>はい。私の場合も中区という要望がありますけれども、先ほどの説明の中でもバス通学の路線図とか時間とかで考えてもそう思えますし、統合したときの建設費、ランニングコスト、トータルコストのバランスを考えても、多少前後はありますけど中区が相当するかなと。なんでもかんでも中区に持って行くというお叱りの声もあるのですが、やはり町の中のセントラルは中区かなと思います。以上です。</p>
(議長)	<p>はい、ありがとうございます。</p>
(委員)	<p>場所ですけれども、多可町で円を描けば中心は安楽田付近になると聞いたのですが、ただ円の中心というわけにはいかないですけれども、私もいろいろ場所を考えたのですが、生涯学習センター候補地のところ、広さも中央公園のグラウンドも絡んできますし、もしかしたら一番ベストなのではないかなと思っていました。その後の小学校のことも考えるとこの広さであれば給食センターも近いし、いろんな意味で一番いい場所ではないかなと思ってはいますが、私も中区がいいと思っていますが、例えば中町中学校を利用される場合、当然新築にしなければいけない建物であると仕事柄分かっているのですが、もし中町中学校を利用されるのであれば、仮設校舎を逆に考えずに、通学路のこともありますが、加美中学校とか八千代中学校に中町中の生徒を分けるとか、そういうこともありかなと思っていました。いろいろな面で難しいかもしれませんが。以上です。</p>
(議長)	<p>はい、ありがとうございました。</p>
(委員)	<p>私は中町中学校を利用して建替えますと、統合後の生徒数から考えますと若干敷地が狭いのではないかなと思っています。ですので、生涯学習センター建設予定地周辺がベストなのかなと思います。あと資料の40年間、60年間のコストを見た場合の維持管理費が書いてありますが、資料では令和15年までの生徒数までしか書いてないのですが、40年先の生徒数を考えるとその維持管理費は計算できないのではないかなと思っていました。</p>
(議長)	<p>事務局、何か回答ありますか。</p>

(事務局)

はい。委員がおっしゃるとおりで最新の出生数が令和2年度までしか出ておりません。小学校でしたら令和9年度の入学、中学校でしたら令和15年に入学までしか出すことができません。ただコストを試算する上で、40年間の児童生徒数の減少は加味できていませんが、5つの小学校と3つの中学校の年間ランニングコストの平均に40年をかけてコストを試算しています。

(委員)

私の結論から言いますと、多可町の中心、中区辺りが長期的に考えても妥当ではないかと思えます。費用面におきましても、通学の面からも最適に、トータルとしても中町中学校の辺りが最適かなと思えます。生涯学習センターの話が出ていますけれども、滋賀県の近江八幡市にある小学校を視察したときに、子どもたちの生活している様子、勉強している様子などを見ておりましても、非常に落ち着いて生活しているように感じました。といいますのも隣に生涯学習センターがありまして、年配の方がいろんな学習をされていました。囲碁とかグラウンドゴルフとか刺繍とか料理とか。学校の隣に一般の大人の方がいる。その中で子どもたちが隣の建物で学んでいる。そして近所のおじいちゃん、おばあちゃんが学校の近くで姿が見える、生活されていることが影響しているかわからないですが、子どもたちが非常に落ち着いて学校生活を送っていると感じました。多可町も、統合した学校の近辺に生涯学習センター、一般の方々とか、年配の方々、幼児やお母さん、保護者、そういった方々がいろんな活動されている姿と同時に、隣に子どもたちが学習しているというあたりが一つメリットで、今後を見据えた学校づくり、地域づくりを望みたいなと思えます。それと拠点とした生涯学習センターがあるのであれば、分散した、加美区の北の方とか、八千代区の大和とか分散した生涯学習的な建物があってもいいのではないかな。距離的に多可町の全ての方がお越しになることはできないと思えますので、そういったところにも根を這わすような形で、拠点を中心に分散したところがあればと思いました。総合的に見て、中区の真ん中辺りが理想的かなと思えました。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

統合するにしても、小学校や中学校が、どんな小学校、中学校になるのか、複式学級とか児童生徒の人数の話が第一になってしまうのですが、どういう施設を兼ね備えた、どういう目的で施設を造って教育を行っていくのか。そういうデメリットではなくて、メリットとなるそういう体制がどんなものなのかということが、もうひとつ私には見えてこないというところなんです。それと統合する小学校なり、中学校施設の場所については、やはり中区が真ん中かな。そういう理由とあとは給食センターが近い、病院も近いと、そういうところで妥当かなと思えます。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

はい。まず、通学のことを考えましたら、一番万遍なく行けるのが加美中学校かなと思いました。それぞれ山寄上からも22分ですし、東安

田からも26分で、上三原からも最短ルートでしたら22分ということで加美中学校がいいのかなと思ったのですが、コスト面から考えますと40年間、60年間を考えましたら、新築が一番安くつくというのと、できたら新しい場所で子どもたちを学ばせてやった方がいいのかなと思いました。最終的には、場所につきましては、生涯学習センター候補地の近くで、小中一貫教育も見据えて、場所としても例えばグラウンドに建設するとか、斬新な考えだと思うのですが、生涯学習センターの近くに、ここが多可町の中心、教育の中心ということで、生涯学習センターの近隣で、小中一貫教育も見据えて、新しい中学校を建設することも考えていいのかなと思いました。以上です。

(議長) はい、ありがとうございます。

(委員) はい。私も各区の通学時間とかを見て、均等に通学できるのは中区かなと思います。校舎は新築で、子どもたちには新しい環境で学ばせたいかなと思いました。私は中区が拠点としてはいいかなと思います。以上です。

(議長) はい、ありがとうございます。

(委員) 私も新築で、中心でしたら中区安楽田付近がいいのかなと思います。中町中学校の場所は少し行きにくいのかなというのがあって、思い切って道を通してはと私は思っているので、中学校の横を通した方が町が栄えるのかなと思いますが、中区安楽田周辺で新築がいいかなと思います。以上です。

(議長) はい、ありがとうございます。

(委員) ある施設を使う方が高くて、ある施設を使わないのであれば、新たに建てるのであれば私はどこでもいいと思います。各区ごとに通学時間とか児童生徒の集落別分布図があるのですが、それ以外の人口の分布図であったりとか、路線バスを活用しない新たな路線バスの増便とか、スクールバスを使ったときの時間計算とか、いろんな計算とか、この2択ではなく、10択でも30択でもできると思いますね。それを見たときに、それと町の人口とこれから人口が増えていくであろうというところまで見据えて、じゃあこの辺りが真ん中ですねっていうのを違う見方、考えでも、新築であればおもしろいのかなと思います。3区の学校を使うことありきで考えてもらっては困るとか、通学バスとかになるのかなと思うので、また新築するよとなると私の中では話が別かなと思うので、新築するのであればこの辺りをいろんな効用をみてもらって、〇〇区の〇〇というところがベストですね、これからここに学校を建てたら、これくらいの土地にこれだけお金が必要でとかになっていくのかなと思いますので、今、この資料で新築、ここにした方がというのはいにくいかなと思います。以上です。

(議長) はい、ありがとうございます。今の資料には出てこなかったスクールバスを動かすこと、人口分布から見てどうかという話などもう少し検討の余地があると思いますので、その辺は事務局の方で資料ができるので

あれば次回にでも示してもらえればと思います。

(委員)

やはり、地元八千代区に学校があればさみしくないなと思うのですが、加美区から通ってくる生徒のことを考えると、とても遠くなるので、やはり中区なのかなと思いました。生涯学習センターのことは全然知らなかったもので、それを聞いたときに、学校の近くにこの施設があればいいのかなと感じました。建物は新築がいいなと思っているのですが、小学校の統合もあると思うので、いろいろなことを考えて、場所を選定していただきたいと思いました。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

私はバスも路線図と予算的などところを見比べていまして、一長一短あるなというのがまず感想です。やはり古いところを使って再利用することも大事ですが、結果的にその後改修が必要になったりとか、増築が必要だとかいうことでお金を使うのであれば、思い切って新築がいいかなと思っています。生涯学習センターとの施設との関係ですが、子どもたちが関係するのは学習スペースや図書館だと思うのですが、学校帰りに立ち寄っていいということであれば生涯学習センターの近くに学校があれば理想的だと思うのですが、一回家に帰ってからじゃないと行ってはだめということであれば、離れていてもいいかなと思っています。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございます。生涯学習センターに直接行ってもいいかどうか、先生方でルールなどまた検討していただきたいと思います。

(委員)

子どもがたくさん集まるということは、運動会とか参観日とかで、保護者の方がたくさん集まって、車もたくさん集まってくるので、敷地に余裕がある方がいいのかなと思いました。加美中学校も車を置くスペースが段々狭くなっていますし、そう考えると中区、八千代区の状況も踏まえて、生涯学習センターの付近に、新築で新しい環境の下、スタートした方がいいのかなと思っています。ただ、広い敷地ということで、今は生涯学習センター候補地の情報しか分からないので、こういう広い場所があるという情報があったら、バスの路線も踏まえて新たな検討材料になるのかなと思っています。以上です。

(議長)

生涯学習センターの近くで広い敷地があればよいという考え方ですか。

(委員)

はい、生涯学習センターの付近に建てるということは駐車場を兼用できますし、ただ、今の資料では広い敷地の情報がないので、広い敷地の情報がこの近くであれば、情報として検討材料になるのかなと思いました。

(議長)

生涯学習センターの周辺であれば、中区でも、加美区でも、八千代区でも良いというイメージですか。

(委員)

はい、そうです。

(議長) ありがとうございます。

(委員) 通学面などの資料を見て中区が良いのかなと思いました。建物につきましても、試算はなかなか難しいと思うのですが、今の段階では新校舎が良いのかなと思いました。中区でも具体的な場所については、生涯学習センター建設の話聞いて、やはり子どもたちが活用する場になりますので、子どもたちが活用しやすい範囲の立地で、隣接までするかどうかについては、活用のルールなど、学校とも実現に向けて取り組むことになるので、その辺は気になりますが、できれば生涯学習センターと学校が連携できるような距離感であつたらうれしいと思いました。以上です。

(議長) はい、ありがとうございます。

(委員) いろいろなコストの試算もして、中町中学校は雨漏りがしたり、施設としてかなり古いので、30年続くようにするためにはコストはかかると思います。加美中学校にしましても、体育館にしましても、それが20年、30年経って手を加えることを考えると新築が良い。区を考えたときに、人が多く住まわれている地域にしないと、バスとか町負担で定期券を使っていることも考えたり、学校の周辺の施設を見てみると、アスパルには素敵な体育館があつて、大人数になつても、バスケットボールが2面とれるくらい大きな体育館が使えたりしたらいいなど。生涯学習センターが近くにあつて、図書館が充実しますので、学校に図書館がなくても、そちらに行ったり、連携しながらの施設になつたりする。管理上の問題もありますが。生涯学習センターの候補地の辺りは川の近くで、水につかりやすい地域だということを聞いたりして、学校というのは避難所の機能があつて、水が浸かるところへ避難してきてくださいという対応ができるのかと思ったりしています。ただ、合併特例債の資料を見てみると、かなり有利で、30億円で6.7億円の負担で済む。新築をすればお金がかかりますので、令和7年度までの期限と書いてある、その期限が過ぎれば使えなくなるとせっかくいい計画を立ててもできなくなってしまうので、ちょっとそれを、期限をすごく心配になります。

最後に小学校の統合のことですけど、個人的には学校がない地域に人が集まってきてくれるかなと思うので、まちづくりとあわせて、学校という意味合いは大きいと思うので、まちづくり、人が定住する施策と一緒に考えていくものだろうなと個人的に思っています。以上です。

(議長) はい、ありがとうございます。

(委員) はい。場所につきましては、中区一択かなと思います。生涯学習センター候補地のアスパル周辺がいいと思いますが、この辺り水に浸かるといふことで、その安全性が確保できるのであればそこがいいかなと思います。あと、一点気になっているのが、通学で、今現在路線バスでの通学時間を加味した資料が提示されていますが、例えば中区に建てた場合、中区の生徒は5分、10分で帰れる、加美区、八千代区はかなり谷も分かれていますので、路線バスとかを使うと止まったりすれば1時間近くかかる生徒も出てくると思います。そういうような格差を少しでも

縮めるように、地元を走るスクールバス、先ほど社小中学校はスクールバス12台という話が出ていました。コストはかかるのですが、そのような対応をすることが、必要不可欠なのではないかと思えます。以上です。

(議長) はい、ありがとうございます。

(委員) 場所についてですが、生涯学習センターができるということも別の会議で聞いておりましたので、考えるとやはりどこから来るにしても、あまり差が無いように、通学距離が遠い生徒を路線バスではなくてスクールバスを例えば15台とかきっちり配備して、40分以内ぐらいで登下校ができるとか、そういうことができる場所に建てるべきだと思います。もし八千代区に建てるのと加美区から来るのは大変ですし、それぞれあると思いますが、中央の中区辺りにそういう場所があればしっかり押さえて、先ほどの駐車場やいろんなことも含めながら、広い場所を押さえた上で、中学校を新築で設計する必要があると思います。多可町で一つだけの中学校になるので、何十年も続いていけることを想定してやっていく必要があると思います。小学校については、国の方で35人学級を進めています。きめ細やかな学習を続けていくということは、今後非常に難しい状況になってくるので、35人学級で専科の先生を中学校並みに揃えていくことを含めて、やはり中学校と一緒に時にはできないかもしれませんが、出来るだけ早い段階で、多可町で一つの小学校にするのが非常に重要ではないかと思えます。先ほどの合併特例債の話ではないですが、時期を逃せば、今度は非常に多くのお金がかかると思うので、そういったことも視野に入れて進めていく方が、費用についても有効活用できるのではないかと思えます。以上です。

(議長) はい、ありがとうございます。

(委員) 今日の資料を基にしますと、難しいとは思いますが、人口やコストや仮設校舎の建設などで運動場が使えないなどの教育活動のブランクを避けるという意味では、中区に新築というのがいいのかなと思います。ただ、先ほども出ていましたように、杉原川が近いということがあって、アスパル周辺は防災対策、学校が水に浸からない、地域の防災拠点になるというのが大事な役目だと思っているので、その辺も考慮して欲しいと思います。これも出ていましたが、全てのものが中区に集まるというのが、多可町としてどうなのか。加美区も八千代区も、多可町の中で中核的なものがあるようなまちづくりは大事かなと感じています。以上です。

(議長) はい、ありがとうございます。

(委員) 私も各方面からの登校時間のこと、運行的なところ、この資料からすると中区かなと思います。中町中学校を改築するか、もしくは生涯学習センター候補地と両方をよく精査する必要があるのではないかと思えます。またその後小学校も統合するという方向であることも加味しながら、それも出来るだけ小中一貫が可能な位置のことも含めて、場所の設定が必要かなと思えました。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

まず、私の考えとしては、中区で新築という考えです。その理由につきましては、まず1つ目は、杉原谷小学校はバス通学の児童がいるのですが、やはりバス通学という形になりますと、いろいろその児童たちにとっては非常に不便なことが多い。例えば、学校としてもできる限りバス通学の時間に合わせるようにはするのですが、場合によっては早めに行事の途中でも帰りなさいという指示をしています。また逆に他の児童は早く帰るけれど、バスが来るまで15分～20分待ちなさいということがあります。そういった、他の児童は自分で時間を決めて動けるのに、バス通学の子はなかなかそれができないということを考えた場合に、出来るだけバス通学の児童を少なくすることを考えたなら、やはり事務局から説明があったように、中区が一番いいのかな、将来的にも人口的なところも考えたなら、中区になるのかなど。それが1点です。

それから2点目ですが、新築がいいという理由なのですが、生涯学習センターの利用を考えることは非常に大切だと思います。教育を学校の中だけとする時代ではないと考えて、やはり近くに施設があり、そこへ足を運び、いろいろなことを体験しながら、学習を進めていくことが大事だと思いました。それからアスパルやベルディーホールなんかもそうなのですが、例えばベルディーホールだったら中町中学校は近いから文化祭などで使われることがあったと思うのですが、非常にうらやましいなと思いつながら、私は小学校ですから実際に大きな文化祭はなかったですが、そのように感じることはありました。学校の近くにそんな施設が、アスパルがあれば、スポーツ開催がそこを利用できる、大会で利用できるということがありますので、近くに図書館があるとか、ある程度施設が充実した中で、中学校も新設で建っている、中学校自体も新設というわけですから、やはり将来のことも見据えた設計をして欲しいなと思います。既存の物をいろいろと中を改装することになると、やはり将来ここまでいきたいけど、現状はここまで終わらなければしょうがないなとかになりますので、やはり将来を考えて新築をお願いしたいなと思います。

それからもう1点は、小中学校を近くに建てるのかどうかということも、しっかりと早めに考えながら同時にこの計画を進めていく必要があるかなと思います。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございます。

(委員)

説明を聞いて、金銭的な面、通学時間などを考えて、中区がいいのかなと思います。みなさんの意見を聞きながらアスパル近辺がいいのかなと思っています。学校に勤めていますので、その立場から言わせてもらうと、新設か新設でないかというところですが、やはり新設がいいと思います。加美中学校が建て替わったときに勤めていまして、半分壊して半分建てて、半分壊して半分建てて、後ろには仮設校舎があるし、長年勤めている中で一番バタバタして時期がその時だったので、やはり建て替わるときの生徒のことを考えると、その時期に勤めている先生方のことを考えると新築が一番すっきりしていていいのかなと思います。

それから生涯学習センターのことが出ていましたけれども、学校から

歩いて行ける場所にあるのがいいと思います。加美中学校の生徒は、加美プラザに学校の帰りに寄って、図書室で本を読んで帰りたいとか、勉強したりとかしています。八千代中学校の生徒も八千代プラザに寄っているし、送り迎えも八千代プラザに迎えに来てもらってとかして、とてもいい活用ができていないかと思うので、バス通学が多くなるので、歩いて行ける所に、中学校と生涯学習センターがあればいいなと考えています。

それから学校現場におりますと行事する時の駐車場にとっても苦勞します。駐車場が近くにある立地がいいなと思いますし、草を刈った後、草を捨てる場所に苦勞します。草を捨てる場所がないので、溜めておいて、シルバー人材センターにお金を払って捨ててもらっていますので、裏山に持って行けたり、そういう便利さも考えて建設できたらと思います。

それから通学ですけど、八千代区の生徒が中区へ通うときにバス通学になると思うのですが、一部の生徒は6キロ円に入っていましたので、産坂を越えて通うのかなと、高校生は通っていますけども危険だなと思うので、安全確保も併せて考えていただきたいことが一点とスクールバスはお金がかかって難しいのかもしれませんが、スクールバスで学校に合わせて運行ができる環境を作っていただきたいなと思います。八千代小学校は大和と大屋はバス通学をしていますが、バスの時刻が変わると学校全体のスケジュールが変わってしまうのです。八千代小学校では、児童が来たときには先生方みんな学校にいて、児童を迎えようということを進めているのですが、今バスが到着するのが午前7時40分です。先生方は午前7時40分には学校に来て、児童を迎えているけれども、働き方改革と言われますけど、勤務時間午前8時05分からですけど、バスが早い分だけ早くから来て待っているような、バスに合わせた学校運営をしなければいけなくなるので、その辺りも含めた学びやすい学校、働きやすい学校というところも、併せて考えていただけたらありがたいなと思います。以上です。

(議長) はい、ありがとうございます。

(副会長) 結論から言いますと中区で新築の学校がいいと思っています。その理由につきましては、バスの利用者を少なくしたいと思っています。中学校では放課後部活動をやっています。部活動に所属しない生徒、外部のクラブ活動に所属している生徒、部活動を引退した3年生、放課後に学習の質問に来る生徒、それぞれの生徒が帰りたい時間がまちまちになっていますので、できるだけ自力で下校ができる、自分のタイミングで帰れるというのが大事だなと思っています。バスの時刻に縛られてしまうところが心苦しいところでもありますので、中区かなと思っています。

それから場所につきましては、中町中学校ですと、将来的に小学校の校舎も建てると考えますと、中町中学校の敷地はちょっと無理があるかなと思います。以上です。

(議長) はい、ありがとうございます。

(副会長) 通学時間と人口の分布図をみますと場所は中区かなと私は思います。それと、西脇市のミライエをイメージしたときに、なぜあの場所にミ

ライエができたのかと考えると、中心地から離れて建設された理由として、周りに何があるあるかと考えますと小学校、中学校、高校があるなど。学校帰りの中学生や高校生もそこで学習している姿がイメージとしてありまして、中区のどこかで生涯学習センターの近くに学校を建設したらいいと思います。以上です。

(議長)

はい、ありがとうございました。ひと通りみなさんの意見をお聞きしました。何か言い漏れがある方はありませんか。今、みなさんの意見を聞いてみましたら、すごく急に出てきました生涯学習センターの話、最初はそのような話は無かったのですが、ここにきて生涯学習センターの計画のウエイトがとても高くなって、やはり生涯学習センターの建設ということと、生涯学習センターの委員会との連携を図りながら、土地や空き施設との活用なども提案しながら、この会ともう少し連携した形が必要なのかなと印象として思いました。今いただきました意見については、場所としては中区に決まりかなと思うのですが、条件として多可町の地図上の中心としての安楽田という意見もありましたし、出来るだけ広い場所というのがありますけれども、具体的な細かいところを詰めていくことは、次の統合準備委員会の段階になるかなと思っています。

この会議としては、統合やむなし、そして出来るだけ合併特例債を使えるような形で、時期を逸しないというところもあって、場所については中区で決定という形でまとめていきたいと思っています。今言っていた意見をまとめながら、方向を決めていきたいと思いますが、それではよろしいでしょうか。

(委員同意)

ありがとうございました。

議事(4)
(事務局)

統合の時期について

では、次に、議題(4)統合の時期についてです。まずは事務局の説明を受けたいと思います。事務局説明をお願いします。

はい。それではご説明いたします。

中学校の生徒数、クラス数の現状と推移です。令和7年度に八千代中学校で全ての学年で1学年1クラスになります。また、令和10年度には加美中学校で全ての学年が1学年1クラスとなります。このあたりが一つの目安になると思います。

次に令和7年度からのクラス数の推移と教員の配置数についてまとめています。出来るだけ多くの教員、1教科に複数の教員が配置できる方が統合の効果が高いと思います。

次にスケジュールですが、他市町の状況をみてみますと建設工事には2年かかります。また、基本計画、基本設計、実施設計、工事をするための準備ですが、併せて2年かかると考えています。あとは、建設候補地をどこにするかによって、建設するための条件整理が必要となります。用地買収や関係法令の整理などがどの程度かかるかによって変わってきます。ここでは1年から2年としています。そうなれば最も早い目標は令和8年度開校、令和9年度あたりが次の目標になると思います。

先ほども導入コストとランニングコストの説明をしましたけれども、

トータルとして、建設するコストもあれば、統合によりまして削減できるコストもございます。コストばかりが問題ではないのですが、保護者説明会でも、このバランスについても説明して欲しいとの要望もありましたので、説明させていただきます。

まず、5小学校、3中学校をこのまま維持した場合、40年間で174億円かかります。これは、やがて来る学校の建て替えや大規模改修、光熱水費などのランニングコストについても含んでいます。

そして、8校を維持するためには174億円必要です。

次に、中学校だけを見ていきますと、3中学校を40年間維持するためには、約83億円必要となります。3中学校それぞれ校舎の建築年次が異なりますが、学校の建て替えや改修、光熱水費などを計算に入れています。

次に、3中学校を1校に統合した場合ですが、建設場所によって事業費に幅がありますが、中学校を1校統合する事で、40年間で11億円から28億円のコスト削減が期待できます。しかし、統合の時期が遅くなればなるほど、ランニングコストがかかるためコスト削減の効果も少しずつ小さくなっていきます。

次に、小学校についてですが、これまでどおり5校を維持した場合は、40年間で91億円かかります。小学校を1校にした場合は、40億円から50億円の削減が可能となります。これは、中学校に隣接する形で新設する事を前提に検討しています。

小中一貫校のご要望もありましたので、一つの案としまして、例えば、中学校統合のために校舎を建設しますが、13クラスの時に統合をしますと、数年後にはクラス数が減り、空き教室が出来ます。その空き教室を利用して、小学校高学年が中学校の校舎で学ぶことができれば、新設する小学校の教室数を減らすことができ、校舎の大きさも必要最小限の建物で良いことになり、建設コストも削減できると考えています。

そして、将来的に1小学校1中学校に統合した場合、40年間の経費は95億円から122億円となり、8小中学校維持する経費174億円と比較しますと52億円から79億円、40年間で削減できることとなります。コスト面からみれば統合の効果は大きいと言えますが、教育委員会ではあくまで子どもたちにとってよりよい教育環境の確保を優先して考えていきたいと思えます。

最後に、合併特例債についてです。合併特例債とは、お得な借入金のことですが、合併した際に、必要な施設や仕組みづくりについて活用できる借入金で、本庁舎の建設などに使われています。何がお得かと言いますと、借り入れたお金の70%が地方交付税で戻ってくるというものです。事業費が30億円とした場合、仮に1/3が国からの補助金として、残り20億円。合併特例債の対象は全額ではなく95%が対象となりますので、20億円×95%は19億円。そのうちの70% 13.3億円が交付税として返ってきます。実質の借入額は差し引き5.7億円、合併特例債の対象とならない5%の1億円と併せて、町の負担は実質6.7億円の支出となります。この有利な借入金の期限が令和7年度いっぱいとなりますので、令和7年度中に工事を終えることができれば一番有利かなと思います。しかし、先ほども説明しましたように、統合のスケジュールは用地のことも含めまして、不確定要素が含まれていますので、合併特例債が活用できれば良いですが、教育委員会としては、子どもたちの負担のないような統合スケジュールを優先したいと考えて

	<p>いますので、合併特例債の活用は絶対条件ではなことを付け加えたいと思います。以上です。</p>
(議長)	<p>はい、ありがとうございました。統合時期についての説明でしたが、ただいまの説明についてご質問はありませんか。時期についてはいつごろがいいかということをお聞きしたいのですが、時期等についてご意見をお願いします。</p>
(委員)	<p>全学年一クラスになるのが八千代中学校で令和7年度ですが、専科の先生が足りなくなるのはいつの時期ですか。</p>
(議長)	<p>事務局どうですか。</p>
(事務局)	<p>はい。すでに今の状況で、八千代中学校は1年生2年生が1クラスで、3年生のみ2クラスの状態なのですが、現状においても技術の免許を持った教員の配置ができていません。</p>
(委員)	<p>すでに足りないのですね。</p>
(事務局)	<p>はい。教員の配置の基準でいきますと6クラスで10名の教員配置となります。3学年2クラスを維持できないと10名の教員が配置できないこととなります。10名の教員のうち一人は教頭ですので、実質は7クラスないと10教科に教員を配置できないこととなります。</p>
(委員)	<p>急ぎましょう。</p>
(議長)	<p>ほかにご質問ありませんか。ご意見をお願いします。</p>
(委員)	<p>早く統合した方がいいのかなと思います。統合時期について、最短で令和8年度、最短で進めたらいいのかなと思います。</p>
(委員)	<p>確認をしたいのですが、先ほどの合併特例債の話がありましたが、この特例債が適用されるのは、令和7年度に着工すれば適用されるのか、完成しなければ適用されないのか、どうですか。</p>
(事務局)	<p>はい。財政課に聞いておりますのは、令和7年度中の完成がその対象になると聞いております。</p>
(委員)	<p>では、非常に急がないと適用されないと思うのですが。</p>
(委員)	<p>そうですね。合併特例債につきましては令和7年度が最終ですが、工事の手法として繰越しということもできます。しかし、それは確定していることではありませんので、現時点では令和7年度いっぱいでも工事も全て完成で、令和8年度開校ということで、合併特例債上のルールに当てはめると、このスケジュールになります。仮に1年延びた場合でも、ある程度の段階まで合併特例債を使う、例えば工事の半分だけ合併特例債を活用するといった手法もありますので、その辺りは補助金なり有利な起債なりを検討する必要があると考えております。</p>

(議長)	そのほかご質問などありませんか。
(委員)	令和7年度までに建設できれば20億円使えるのに、それを過ぎたら10億しか使えないのであれば、20億円使えた方がいいと思います。1年で10億円変わるのであればという話です。
(議長)	急がなければという意見ですね。我々のスケジュールでいけば、今日は9回目の会議ですけれど、年度内というよりも、年内に結論を出して、すぐに検討に入ってもらわなければいけないですね。統合準備委員会の期間は長く設定してありますが、統合準備委員会で決めてから基本計画をするのか、それとも並行して動くのか。
(事務局)	はい、そうですね。八千代小学校統合の際には、改修を行いました。建物の新築はなく、2年で統合ができたのは、建物を改修で対応したことが大きかったと思います。その2年間ですけれども、いろいろな部会を立ち上げました。例えば総務部会、学校名、校歌等の決める部会や通学部会ですね、通学方法考える部会、学校のこと、PTAのこと、いろいろな部会を立ち上げて、協議していく形となります。近隣の統合の状況を見てみますと年間に十何回と開かれる部会もあれば、数回で終わっている部会もある。この期間が延びれば余裕をもって決めることができる、周知することができる。ただ、委員のみなさまの任期をどうするかという課題はありますけれども、基本設計、実施設計をしている間に統合準備委員会を立ち上げて、並行して進めていくことはスタンダードな進め方だと思っています。
(議長)	はい、わかりました。いずれにしましても急いでいかないといけないなと思います。今、数人の方に意見を聞きましてけれど、次回この話をみなさんから意見をいただいたり、資料を見ていただいて疑問点を出していただくという形で、次回はここから入っていきたいと思います。そのあと、先ほどいろいろな課題を言っていただきました。心配されているところをもっと出してきて、場所と時期と決まったので、それで終わりではなく、もっと要望する事項、子どもたちのケアとかいろいろなことがあると思いますので、そのことについてももっとこうして欲しいということ。次の統合準備委員会の方へいろいろ引き継いでいくといった形でいきたいと思いますので、次の時には、時期と次へ引き継ぎができるように、いろいろな意見をお聞きしたいと思いますので、今日のところはこの辺りで終わりたいと思います。ありがとうございました。事務局に返したいと思います。
	はい。会長ありがとうございました。 本日は、場所と時期についてご協議をいただいた訳ですけれども、場所については「中区」かな、時期については次回ご協議いただくということで、本日はまとめさせていただきたいと思います。
次第4.	その他 次第4. その他です。 意見書の素案についてです。第10回、第11回で意見書についても

少しまとめていけたらと考えておりますので、本日、意見集約ができた部分ですとか、これまでご意見いただきました課題等につきましては、意見書として統合準備委員会へ送るといった形でまとめる部分と本会で話し合っていた部分とに分けさせていただいて、次回は意見書の素案をお示ししたいと思います。本会で決まったことは、来年度以降、統合準備委員会を立ち上げましたら、そちらへ繋いで参りたいと思っておりますので、引き続きご協力のほどよろしくお願いいたします。

次に住民説明会についてです。

10月29日、30日、31日、3日間連続で開催いたします。またHPなどでご案内いたしますので、時間のある方はぜひお越しいただきたいと思います。

そして、今後のスケジュールについてです。第10回を12月1日（水）午後7時00分から、第11回を1月20日（木）午後7時00分からともに、ここベルディーホール会議室で開催いたしますので、すみませんが、大変長い会議、多い回数になりますけれども、ご予定いただきますようよろしくお願いいたします。

事務局からの事務連絡は以上です。何かご質問はございますか。

（質問なし）

次第5.
（事務局）

閉会

それでは、閉会にあたりまして、副会長より閉会のあいさつをお願いいたします。

（副会長）

本日も多くのご意見をいただきまして誠にありがとうございました。いよいよ意見書に落とし込むところまで話が進んできております。本会のゴールが近づいてきたなと感じております。次回は、意見書の内容についても検討ができるかなと思っております。本日は、貴重なお時間、どうもありがとうございました。これにて閉会とさせていただきます

終了時刻 午後9時10分